

表題	水稻「夢いずみ」の安定多収栽培技術	機関	農業研究センター 球磨農業研究所
<p>概要： 水稻「夢いずみ」で 55kg/a の収量を得るための目標籾数は 30,000 粒m^2であり、その際の穂数は 350 本m^2である。この目標籾数及び穂数を確保するための施肥法は、慣行施肥に加えて出穂前 30 日に窒素成分で 0.2kg/a の追肥施用が有効である。</p>			

研究のねらい

本県の山麓準平坦及び球磨地域では中生種のヒノヒカリが作付面積の約 80 %を占め、品質安定、省力・低コスト稲作のためには熟期分散が望まれる。

このような中で、平成 9 年度に奨励品種に採用された晩生種「夢いずみ」の普及拡大が期待されているが、「夢いずみ」は偏穂重型で標準的な施肥では穂数がとれにくい。

このため、適性籾数及び穂数を把握し肥培管理法を確立する。

研究の成果

1. 「夢いずみ」で 55kg/a の収量を得るための目標籾数は 30,000 粒 m^2 であり、その際の穂数は 350 本 m^2 である。
2. 基肥の増量や密植による茎数及び穂数の増加は少なく、地域の一般的な基肥量及び栽植密度でよい。
3. 出穂前 30 日に 0.2kg/a の追肥を施用することで、有効茎歩合が高まり、また一穂籾数が増加し、目標籾数が確保できる。
4. 肥効調節型被服肥料を施用する場合は緩効率 50 %のシグモイド型肥料（窒素溶出抑制期間 45 日、溶出期間 55 日、100 日タイプ）を全量基肥施用する。
5. 施用量は慣行施肥窒素成分と同量を施用することで、慣行施肥と同等の収量が得られ、追肥及び穂肥の労力を軽減できる。

普及上の留意点

1. 地力窒素が中位の厚層多腐植質多湿黒ボク土における「夢いずみ」移植栽培で本施肥法を用いることができる。
2. 緩効性肥料については、天候により生育・収量が変動する可能性がある。

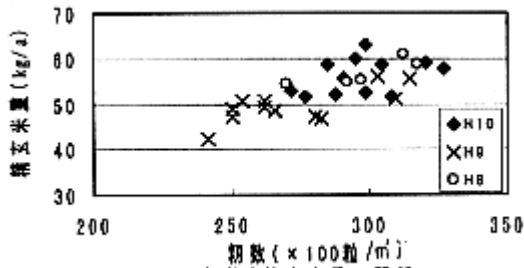


図1 初数と精玄米重の関係

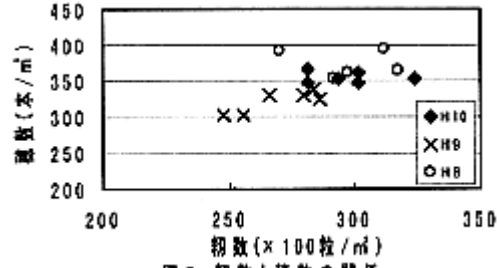


図2 初数と精玄米重の関係

表1 生育・収量調査結果(農産園芸研究所、平成10年度調査)

表1 生育・収量調査結果(農産園芸研究所平成10年度調査)

基肥量 (N kg/a)	栽植密度 (株/m ²)	最高 茎数 (株/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	収量 比 (%)	一穂 初数 (粒)	初数/m ² (x100)	登熟 歩合 (%)	検査 等級
0.5	15.9	369	85	19.9	273	49.4	97	93.8	256	84.7	2.0
	18.5	364	83	19.9	264	51.1	(100)	92.6	244	84.1	2.0
	22.2	368	85	20.0	282	49.5	97	91.4	258	82.6	2.0
	27.8	369	82	19.6	271	46.5	91	89.7	243	83.2	2.5
0.7	15.9	431	87	19.6	301	50.7	99	92.7	279	82.5	3.0
	18.5	416	86	19.7	285	52.8	103	91.0	260	82.9	2.5
	22.2	467	87	19.7	318	51.1	100	88.1	280	78.2	2.0
	27.8	428	85	18.9	307	48.7	95	86.1	264	81.1	2.5
0.9	15.9	418	90	20.0	308	50.6	99	96.8	299	78.7	3.0
	18.5	412	88	20.1	304	52.7	103	93.4	284	80.7	3.0
	22.2	437	89	19.6	322	52.9	104	89.2	288	75.8	2.5
	27.8	436	88	19.7	325	52.4	103	87.4	284	82.4	3.5

注)

各区とも追肥として出穂前25日に0.3、15日に0.2(各Nkg/a)を施用した。

登熟歩合は1.8mm以下の玄米重/全初数

表2 生育・収量調査結果(球磨農業研究所)

表2 生育・収量調査結果(球磨農業研究所)

試験区	基肥 追肥・穂肥 (出穂前日数) -30 -20 -10 (N kg/a)	出穂前 30日		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	収量 比 (%)	一穂 初数 (粒)	m ² 当り 初数 (x100)	登熟 歩合 (%)
		茎数 (株/m ²)	葉色								
標準	0.5-0.0-0.3-0.2	440	38.5	80	18.7	324	50.4	100	83.7	265	81.9
基肥増量1	0.7-0.0-0.3-0.2	434	39.2	80	18.9	327	54.9	109	87.5	279	82.4
基肥増量2	0.9-0.0-0.3-0.2	435	38.6	82	18.9	338	51.6	103	85.5	290	81.0
ラグ期追肥	0.5-0.2-0.3-0.2	430	38.4	82	19.1	346	55.3	110	90.3	304	81.2
緩効Sタイプ	1.0-0.0-0.0-0.0	447	39.7	81	17.7	346	52.4	102	83.3	284	82.3
緩効Lタイプ	1.0-0.0-0.0-0.0	469	40.5	79	17.4	350	51.0	101	78.9	281	79.5

注)

出穂前30日の茎数及び葉色は平成10年の調査結果、その他の値は平成9年~10年の平均値

倒伏はH9、H10の2年間とも無であった。